

語数: 89語 目標時間: 15分 文の形: think／know＋that節 ねらい: 「だれがそう思っているか」を読む

 **場面** 英語ディバートの資料。「朝読書の時間」について、生徒と先生の考えが引用されています。「事実」と「だれかの意見」を区別しながら精読します。

 **精読とは** 速く読む練習とは反対に、1文ずつ「だれが・どうする・なぜ」まで説明できるように読みます。辞書を使ってOK。
①②…は文の番号です。

読 ディバート資料の一部です。

- ①Our school has ten minutes of morning reading every day.
- ②Some students think that ten minutes is too short.
- ③Hana says, "I know that reading is good for us, but I can't enjoy a story in ten minutes."
- ④Mr. Kimura, our teacher, thinks that short time is the key.
- ⑤He says, "Ten minutes every day makes a big difference in one year."
- ⑥I believe that both ideas are right.
- ⑦So here is my plan: ten minutes every day, and thirty minutes on Friday.
- ⑧What do you think about it?

 make a difference=変化を生む key=かぎ・決め手

問 設問(10点満点) 記号は()に、書く問題は下の線に。

(1)	文⑧のitは何を指していますか。日本語で書こう。	2点
(2)	「キムラ先生が『短さこそ決め手』と考えている」とわかる文はどれ？ 番号で答えよう。	2点
(3)	ハナの意見に合うのはどれ？ ア. 読書は役に立たないと思っている。 イ. 毎日30分読みたいと言っている。 ウ. 読書のよさは分かるが10分では物語を楽しめない。	2点 ()
(4)	文⑥の主語と動詞を英語のまま抜き出そう。また、that以下の内容を日本語で。	2点
(5)	筆者のプランは、2人の考えをどう両立させている？ 日本語で書こう。	2点

答 解答と許容範囲

(1)	筆者の案(毎日10分+金曜 だけ30分の朝読書プラン)	⑦のmy plan。直前の提案を受ける。
(2)	④	thinks that short time is the key。⑤はその理由の発言。
(3)	ウ	I know that ～, but ～。butの後ろが本音。
(4)	主語: I 動詞: believe that以下=どちらの考えも 正しいということ	believe that ～=「～だと信じる」。that節は「考えの中身」の箱。
(5)	毎日10分は続けて(先生の 考え)、金曜は30分にして物 語をじっくり楽しめるように した(ハナの考え)。	⑦の2つの数字がそれぞれどちらの意見に対応するか。

訳 全文訳(自分の読みと照らし合わせよう)

①わたしたちの学校には毎日10分の朝読書があります。②10分は短すぎると思っている生徒もいます。③ハナは「読書がいいことは分かってる。でも10分じゃ物語を楽しめない」と言います。④担任のキムラ先生は、短い時間こそが決め手だと考えています。⑤「毎日の10分が、1年で大きなちがいを生む」と先生は言います。⑥わたしは、どちらの考えも正しいと思います。⑦そこでわたしの案です——毎日10分、そして金曜日は30分。⑧この案、あなたは どう 思いますか？

☆じっくり読みのコツ Level 5 think that ～ / know that ～ のthat節は「考えの中身が入った箱」。箱のふたには必ず持ち主の名前(Some students / Mr. Kimura / I)が書いてある。事実の文と意見の箱を区別できると、議論の文章は一気にクリアになる。

■ 記録しよう 得点 ____ / 10 → 8点以上なら次のLevel 6へ。7点以下なら、全文訳を見ながら本文をもう一度読み、(5)の答えを書き直してから次へ。